

「鈴鹿型コミュニティ・スクール」とは？

鈴鹿市での「コミュニティ・スクール」は、次の3つの点に特徴があることから、「鈴鹿型」と名前を付けました。

1 学校や地域の実態に応じた取り組みを大切にします

市の推進方針に基づきながら、各学校や地域の実態に応じた身近な教育課題を、学校運営協議会のテーマとして十分に協議して、共通理解を深めます。

協議された内容について、保護者や地域の皆さんが同じ目標に向かって、できることから協働して改善活動に取り組んでいきます。

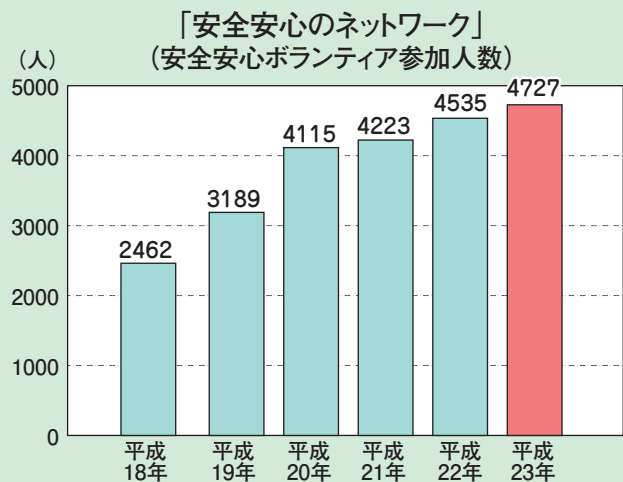
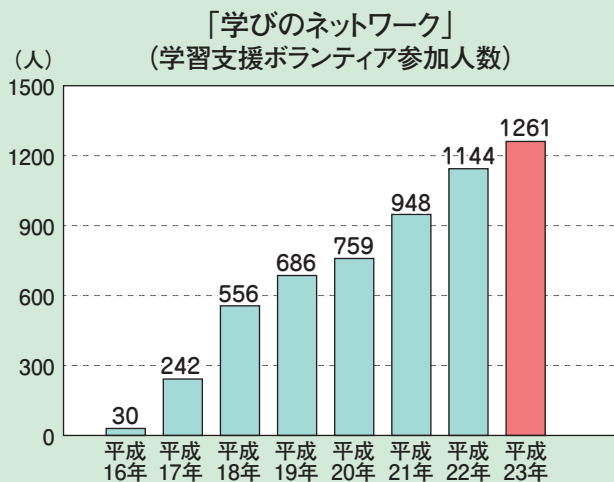
2 保護者や地域による学校支援ネットワークを基盤とします

コミュニティ・スクールは、平成16年度から大切にしてきた「学びのネットワークづくり」と「安全安心のネットワークづくり」をこれからも大切にして、学校や地域の実態に応じた学校支援のネットワークをさらに発展させる取り組みです。

今後は、学校が保護者や地域住民からの支援を受けるだけでなく、地域活動への参加も広げ、「学校と地域との双方向の連携」による「つながりつながる 鈴鹿の教育」に取り組めます。



広がる学校支援のネットワーク（平成23年12月末時点 鈴鹿市教育委員会調査）



3 市内すべての小中学校で取り組みます

義務教育は、「機会均等・水準確保・無償」が原則です。

子どもたちが、市内どこの学校でも等しく地域の皆さんに支えられ、きめ細かな教育を受けることができる教育環境づくりを進めます。



つなぎ つながる 鈴鹿の教育

① 明生小学校の取り組み

明生小学校の取り組みについて、学校運営協議会の^{かどひら}門平宏委員にお話を伺いました。

【学校運営協議会メンバーについて】

明生小学校の学校運営協議会は、保護者、地域の皆さん、民生児童委員などこれまで学校の教育活動に関わってきた11人で構成しています。



今年は2カ月に一度、年6回の学校運営協議会を開いて、学校をよりよくしていくために各委員が積極的に意見を出し合っています。

【学校を支援する3つの部会の活動】



明生小学校では、大きく3つの部会を設けて子どもの教育活動の支援に取り組んでいます。コミュニティ・スクールをスタートさせたことで、さらに多くの方に参加していただきたいと考えています。



「学習支援ボランティア部会」は、教科の学習や学校行事の時に

学校に協力する活動です。毎月第2金曜日の朝に実施している「本の読み聞かせ」ボランティアをはじめ、現在35人が参加しています。

「環境整美部会」は、主に校内の草刈りを行っており、現在6人が参加しています。中には、毎日学校に来ていただく方もみえます。

「安全安心部会」は、登下校の送り迎えや、朝のあいさつ運動に協力する活動で、100人以上の地域の皆さんの参加が得られています。地域の青色回転灯パトロールカーの活動も大変積極的で、絶えず登下校時のパトロールに協力いただいています。

【オヤジの会の取り組み】

明生小学校ならではの取り組みといえるのは、



今年4月に発足予定の「オヤジの会」です。

学校活動に参加いただくのは、どうしても女性が多い現状から、もっと父親を参加させたいという課題を学校運営協議会で協議し、PTAのOBを中心とする「オヤジの会」を組織することにしました。昨年バザーでは、「オヤジの会」発足準備会により焼き鳥を出店したのですが、1時間待ちの行列ができるほど好評を得ました。今後、オヤジならではの力仕事や楽しい行事を行っていく予定です。

また、「オヤジの会」ではありませんが、本の読み聞かせボランティアにも、昨年10月からは地域の男性ボランティアの参加が得られるようになりました。女性とは違うジャンルの本が選定されるなど、子どもたちにも新鮮に映っているようです。

【今後に向けて】

学校を含めた地域全体で子どもを育てていこうとするコミュニティ・スクールの取り組みを進めるため、地域の特に60歳代の方に週1時間くらいでよいので学校へ来ていただけるような仕掛けを学校運営協議会で工夫し、子どもたちの元気な笑顔があふれる学校づくりを進めていきたいと考えています。

忘れかけていたもの…学校が昔そうであったような保護者とのつながり、地域とのつながりを取り戻していきたいですね。

